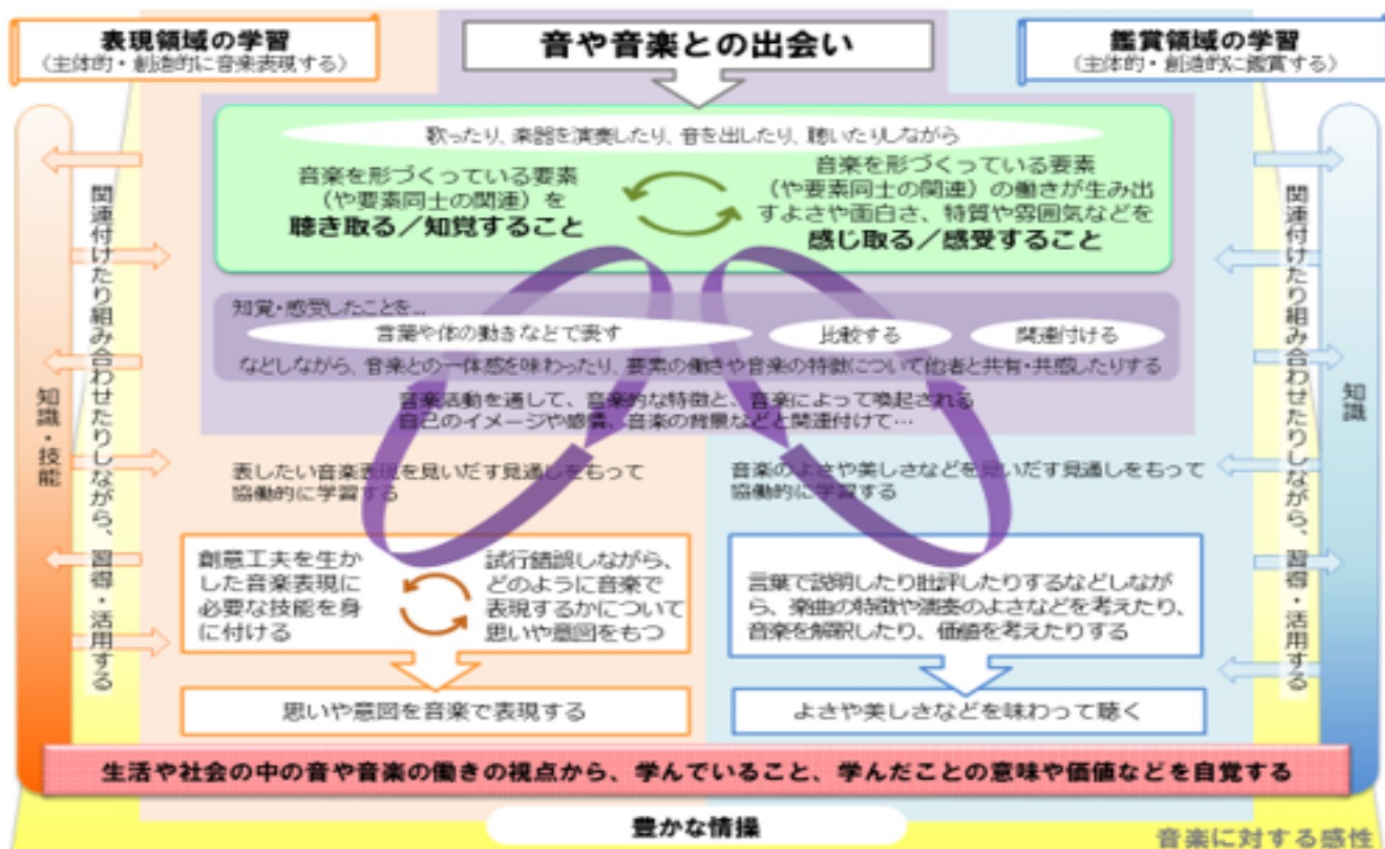


音楽

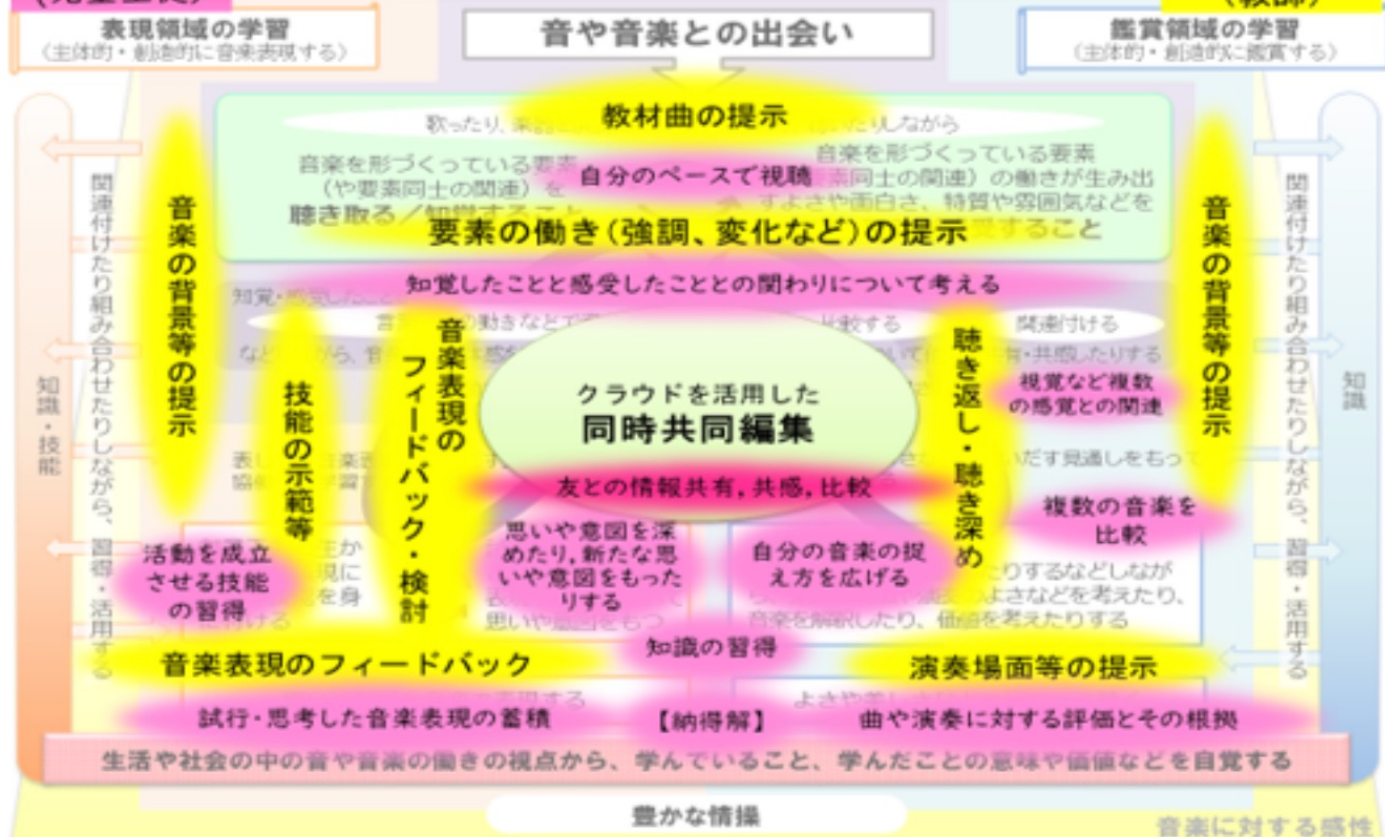
音楽科、芸術科（音楽）における学習過程のイメージ



ICTの活用 (児童生徒)

音楽科、芸術科（音楽）における学習過程のイメージ

ICTの活用 (教師)



学年・題材名：中学校2年・ポピュラー音楽の魅力にせまろう

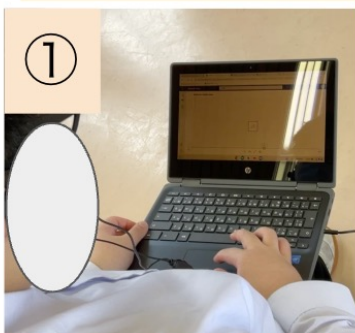
見方・考え方：音楽に対する感性を働かせ、ジャンルの異なるポピュラー音楽（ロック、ジャズ、ボサノヴァ）を、旋律や音の重なりとそれらの働きの視点で捉え、自己のイメージや感情と関連付けること

ICTの活用：旋律や音の重なりによる感じ方の違いが実感できるよう、個々のペースで繰り返し聴けるように活用

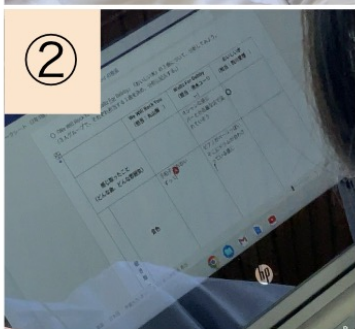
学習場面：自分と友の感じ取ったことを共有し、その根拠を明らかにしていく場面

「まとめ・表現」に至るまでの流れと次の学びへのイメージ

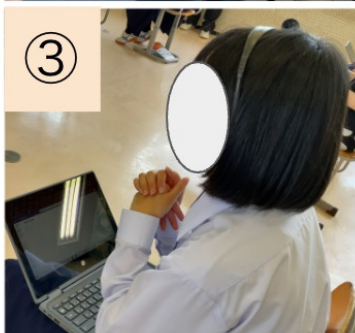
自分の担当する曲を自分のペースで聴き（情報の収集）、音楽を形づくっている要素をよりどころに、聴き取ったこと感じ取ったことをワークシートにまとめたり、友の記述を参考に自分の曲と再び向き合ったりしながら（整理・分析）、聴き深めたりその曲の良さを味わったりしていく。



①動画共有サイトにある教材曲に自分の端末からアクセスし、自分のペースで鑑賞します。気になった部分を取り出したり、繰り返したりして聴くことで、曲のイメージを掴んだり、さまざまな楽器が用いられていることや音色や音の重なりに気付いたりする姿がありました。



②曲を聴き、知覚したことと感受したことなどをグループで同時共同編集できるワークシートに記入します。例えば、音楽を形づくっている要素を視点とした聴き取りが難しい生徒も、友の記述をリアルタイムに参照できることで、自分の担当している曲に照らして記述を進めました。



③また、友の記述から、自分だけでは気付かなかったことを新たな視点として曲と向き合う姿が見られました。楽器の音色のみに着目していた生徒が、旋律の動きに着目できたことで、「旋律の動きが少ない曲だから、心を落ち着かせたい時に聴きたい」と自分としての価値を見出すことができました。

この事例のポイント

- ・自分のペースで鑑賞。
 - ・ワークシートをグループごとに同時共同編集。
 - ・資質・能力の視点別と授業改善の視点別で捉えた活用。
 - ・知覚・感受を視覚情報として共有。
- 友の書き込みを吟味し、自己の聴き方を深める一助に。

